Associé

2022.07

社会福祉法人京都福祉サービス協会　　情報誌　アソシエ　No.25 ／ 隔月刊

相談支援の一体化に向けて

第２期中期経営計画による法人組織の一体化の中で、相談支援事業の機能強化が打ち出されています。この中で、居宅介護支援事業は、唯一、居宅・施設の両部門に跨って実施されている事業であり、他事業と異なり、業務内容の統一という大きな課題があります。現在の業務一体化の進捗と課題に向けての取組、これからの展望をお伝えします。

■ 相談支援事業の一体化で目指す形

協会は、京都市内最大級の社会福祉法人として、相談支援の中核である居宅介護支援事業や地域包括支援センターを多数運営しており、多様な人材、ノウハウ、各々で築き上げたネットワークといった強みを持っています。一方で、現状では部門別（居宅部門、施設部門）の縦割り的な組織運営となっているため、十分な連携が図れず、その強みやスケールメリット、総合力を発揮できないという課題がありました。

相談支援事業は、今後の地域包括ケアシステムを支え、協会が目指す地域共生社会を担う要の事業です。このことは、国が地域共生社会の実現に向け、包括的支援体制として「断らない相談支援」「継続的な伴走支援」を重視していることからも明らかです。だからこそ、協会は社会の要望に応え、役割を果たしていくため、「相談支援事業の再編、機能強化」を重要な取組の一つに位置付けました。

この再編は、一方の部門が、もう一方の部門のやり方に合わせるといったものではなく、これまでの部門ごとに蓄積したノウハウやネットワーク、経験を共有し、「地域相談支援部」として一体的に再編していくことが重要です。相談支援機能強化を通じて、「やっぱり協会は頼りになる」と、これまで以上に地域や他の事業者から信頼を得て、京都の福祉をリードしていく存在になりたいと考えています。

左から、居宅本部 井本副本部長、塩澤本部長、施設本部 吉川部長、居宅本部 新宅部長の４名が、今後の組織体制と運営について協議

■ 課題とこれまでの取組、これからに向けて

両部門にまたがり実施している居宅介護支援事業所の体制は、同じケアマネジメントを行う職種でありながら、業務の進め方や、介護ソフトも異なり、加えて事業に求めることや考え方までも差異があります。取り組むべき課題はたくさんありますが、地域相談支援部の組織体制・運営については、両部門が共同して指揮・命令系統や運営方法などを検討しています。

すでに一体化に向け、介護ソフトは、居宅部門が 2020 年に導入した「ケアカルテ」に統一し、施設部門では１月から「ほのぼの」からの移行作業が進められ、４ 月から本格実施となりデータ移行の完了に向けて取り組んでいます。

今後については、両部門における居宅介護支援の業務運営、業務管理等の現状を把握するため、施設部門の居宅支援事業所のヒアリングを実施していくこととしています。その中で、相談支援事業の方向性を明確にし、組織の一体化に向けて調整を進める予定です。

相談支援事業の方向性の明確化

① 一体的な運営方針を明確にした上で、調整を要する項目の洗い出し、優先順位を確認。また、居宅介護支援事業として統一する部分と拠点により独自性を持たせた運営が必要な部分を明確にする。
② 地域包括支援センター業務の中で、法人内で共有する項目を確認する。
③ 居宅介護支援と地域包括支援センターとの連携強化。

「地域相談支援部 再編検討チーム会議 確認事項」

相談支援事業の一体化は、今後の法人組織一体化の促進と、法人全体の経営状況にも大きな影響を及ぼすものと肝に銘じて、居宅部門、施設部門、各事業所との協力のもと取り組んでまいります。

FU･KA･BO･RI 特集

介護人材の確保、定着、育成はどうなっているのか。

インターンシップや職場実習、学校での講義やフェアなど、さまざまな場面で学生さんとの出会いがあります。そんな出会いを大切にしながら行っている採用活動。出会いから採用、定着、育成を行う中で、京都福祉サービス協会に入職して良かった、と思っていただけるよう、職員が一体となって取り組んでいます。その内容について、お伝えします。

■ 9～12 月　採用準備

学生さんと協会との最初の接点は、インターンシップ（主に 8 月・2 月）や実習です。そこで協会や職員の魅力を感じていただけると、アルバイトやボランティアを経て入職まで繋がっていくことがあります。現在は、コロナ禍で体験できることが限られ、魅力を最大限に感じる機会が少ないのが残念なところです。

そのような中でも、過去に接点があった学生さんやこれから接点を作っていく学生さんに対して採用活動を行っていきます。採用担当は、今年度卒業する学生さんの採用活動と並行して、来年度卒業する学生さんに対しても、秋から準備を始めていきます。

まず、今回実施した採用活動の振り返りを行い、来年度どんなサイトを使うのか、どのタイミングでどのフェアに参加するのかを考え、予算組をします。サイトを運営するためには、学生さん向けの企業ページを作成しなくてはなりません。どんな学生さんに来てもらいたいのか、どう表現したら魅力的になるのか、さまざまな視点から作成していきます。

■ 1 月～　採用活動スタート

現在、協会では 2 つの方法を使って、学生さんとの接点を作っています。1 つは、就職フェアやイベントで学生さんと出会い、協会に興味・関心を持ってもらえた学生さんが就職サイトに登録するというもの。もう 1 つは、ダイレクトリクルーティング（以下、DR）と呼ばれるもので、学生さんが自身で登録した情報（履歴書のようなもの）をこちらが確認し、協会で働いてもらいたい学生さんにスカウトメールを送り、興味・関心を持ってもらえた段階で接点を作ることができるというもの。

就職フェアは 3 月からスタートしますが、就職活動に意欲的な学生さんはそれ以前に活動されていることも多く、採用担当も DR を 1 月からスタートしています。

入職式

就職フェアでは、魅力発信チーム（※詳細は 2021 年 11 月号参照）のメンバーとともに、直接、協会・現場の魅力を伝えます。学生さんからも、ブースの雰囲気の良さや、魅力が伝わったとの声を多数いただきました。

就職フェアでのブースの様子

接点ができた学生さんには、まず法人説明会の案内を行います。法人説明会では、資料を使って協会の魅力を知っていただく内容のほか、魅力発信チームを中心とする現場の若手職員にも協力してもらい、気楽に話せる座談会を設けています。そして、説明会終了後には、説明会資料、採用パンフレットや法人パンフレットに加え、人材確保チーム（中期経営計画作業チームの一つ）で作成したライフサポート制度をまとめたリーフレット（結婚から育児まで、様々な節目で活用できる制度をまとめたもの）も郵送しています。学生さんにとっては採用担当だけではなく、現場の職員との会話を通じて協会の雰囲気なども感じ取ることができ、自分が気になる条件を確認しながら、実際に選考に進むかどうかを検討されます。

協会の選考は、一次選考：エントリーシートの提出⇒二次選考：一般教養、小論文、面談、⇒最終選考：役職者との面接を経て、内定となります。コロナ禍で、以前のように一斉に試験をすることが難しいため、現在は個々の学生さんに都合を聞きながら、少人数で選考ができるように調整しています。また、二次選考では、今年から少しでも学生さんと距離を縮め、お互いを知る機会にしたいという理由で、これまでの面接から面談に変更し、私服での参加も可能にしました。面談にしたことで、緊張する姿が少なくなり、素顔を見せてもらえる機会が増えていると感じています。今は、学生さんを選ぶ時代ではなく、学生さんに選ばれる時代。他法人とは異なる協会の魅力をしっかりと伝えられるよう、各事業所の試みにもアンテナを張っています。

内定者の皆さんには、この Associé の送付を通じて協会の取組を知ってもらったり、よこ糸カフェにお誘いしたり、オンラインイベントを企画する等しています。しかし、学生さんによっては就職活動を終えた方もいれば、真っ最中の方もいる中で、いかに負担をかけずに参加してもらえるのか、常に試行錯誤しています。

■ 10 月内定式とその後

10 月 1 日（土・日の場合は月曜日）には、内定式が開催されます。理事長から内定証書授与が行われ、内定式後には、みんなで楽しいひと時を過ごす懇親会イベントを実施。その後も、2 か月に 1 回のペースで開催しており、内容もその年の内定者の皆さんの思いを汲み取りながら、臨機応変に企画していきます。ここでも魅力発信チームの皆さんが活躍しています。

懇親会イベント

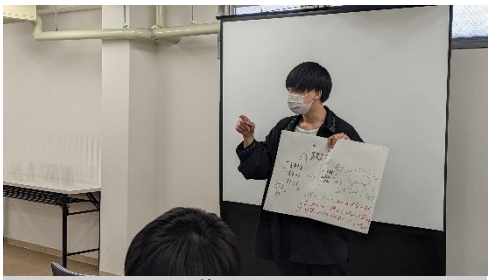
内定者の皆さんは、就職の際に必要な書類を見るのも初めての方ばかり。3 月には、必要な書類の説明を行う場も設けています。介護の基本を学ぶための初任者研修については、福祉を学んでいる、学んでいないに関係なく、希望された方が無料で受講することができます。

■ 4 月入職式、研修の始まり

4 月 1 日はいよいよ入職式。採用担当としてこれまでかかわってきた内定者の皆さんが、一緒に働く仲間になります。入職式では、真剣な表情の中に、意気込みも見られます。今年は、居宅部門 4 名、施設部門 20 名（社会人採用も含む）、加えて児童館 2 名が入職しました。

入職式後には早速研修が始まります。これまでは、研修はそれぞれの部門で行っていましたが、今年度から一部の研修を人材育成チーム（中期経営計画作業チームの一つ）で一緒に行うプログラムに変更しました。初めの 2 日間は、法人のことを知る内容や、コンプライアンス、地域共生についてグループワークを通して学びます。その後、接遇マナーや倫理、ソーシャルワークについて学びます。

入職式の後、研修 1 日目



研修での一コマ

毎年行っていた歓迎会は、コロナ禍のため残念ながら中止となりましたが、感染対策を行いながらできるだけグループワークを取り入れ、交流する機会を作りました。

研修は、合同で行ったものを含めて、11 日間。最終日には各事業所の研修担当が参加し、現場での目標を一緒に考え発表しました。その後、同じ事業所に配属される皆さんに対して、具体的なアドバイスを行うなど現場での不安がないようフォローしていきます。

■ 4 月中旬から現場へ！

いよいよ各事業所への初出勤。両部門ともプリセプターシップ制度（専属の先輩職員が約 3 か月一緒に勤務をします）が始まります。この制度は、専属の先輩からの指導が基本になります。プリセプティ（新人職員）が混乱しないよう、プリセプター（先輩職員）は根拠のある支援内容を言葉や実践を通じて伝えることで、両者が成長できるなどのメリットがあります。また、業務面だけでなく、体調や精神的な面からもプリセプティを支えることができます。ときに、お互いの思いにずれが生じたり、勤務初日から変則勤務になることも。この制度は、プリセプター、プリセプティだけではなく、研修担当や部署の職員、事業所全体でフォローする姿勢が大切になります。

現場配属から 1 か月ほどでは、関係性もできていないことが多いため、研修にも携わった採用担当が各事業所を訪問し、楽しいことやつらいことがないかを聞き、どうしたらよいのか一緒に考える機会も作っています。悩みながらも日々成長している新人職員にとって、働きやすい環境ができるよう事業所も法人も考え続けています。

■ 研修や現場でフォローアップ

居宅部門では、事業所内でも定期的に介護技術研修や、倫理研修が開催され、介護における実際の身体の使い方やグループワークを通して学びを深めています。

施設部門では、現場に配属されてから、2 か月後の 6 月にフォローアップ研修が行われ、2 か月間で学んだことを振り返ります。9 月、2 月にもフォローアップ研修が企画されており、段階的に学んでいきます。同期の仲間と研修で会うことで、成長した姿をお互い確認し、これからも頑張ろうと思う機会になります。また、グループワークで、これまで行ってきた支援の内容を相手に伝わるように言葉にすることで自分自身のケアの振り返りにもなります。

現場での学び、集合研修での学び、どちらも大事な機会です。協会として、さらに質の高い研修体制を作っていきます。

フォローアップ研修

人材管理室 準備室
室長 松本勝一氏

学卒者採用に係る一連の流れをご紹介しましたが、年度を通じた取組についてご理解いただけましたでしょうか。採用担当職員はこれらの流れに沿った業務以外にも、新たな学校とのつながりの開拓や広報業務、教育現場への参画等、優秀な人材の採用に向け、裏方の業務にも汗を流す毎日です。

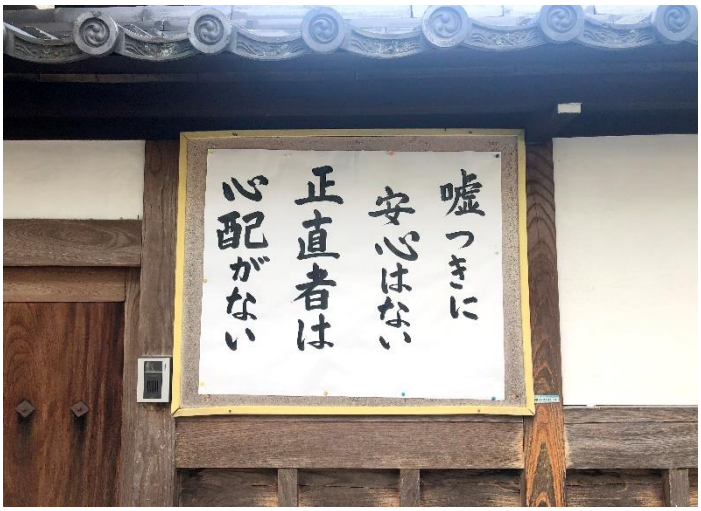
採用担当職員の業務成果は、単に優秀な人材を集めることではなく、新たに迎えた人材が、5 年後、10 年後に組織を支え地域に貢献できる人材に成長して、初めて明らかになるものと考えています。

共に学び育みあえる人材が集う組織を目指して、努力を重ねてまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

西院老人 DSC 職員／厚労省「認知症希望大使」

下坂厚の写真日記④

協会職員の下坂厚さんが自ら撮って選んだ、お勧めの写真をご紹介します。素敵な写真を楽しんでください。



お寺の前の掲示板、ありがたい言葉やユーモラスな言葉に出会います！

京都にも少しづつ、修学旅行生や観光客の姿が戻ってきた様です。

カメラを持って出かけると、思いがけない瞬間に出会うことがあります。『一期一会』、大好きな言葉です。

職場リレーエッセイ⑥　welcome やまの家

【 Theme 】地域とのつながり

小規模多機能型居宅介護山ノ内(通称:welcome やまの家)は御池通と三条通りの間にあり、嵐電嵐山線の「山ノ内」駅の北側の住宅地の中にあります。民家改修型の建物で地域カフェを併設しています。

右京区山ノ内は、保育園や児童館、母子寮など福祉施設も多く、子育てや高齢者への見守り活動などにも力を入れている地域です。そのような地域でやまの家は平成 23 年 3 月に誕生しました。

やまの家の建物は、このお家に住まわれていた独居女性の方から、協会に建物の活用の申し出があり、購入したのが始まりです。小規模多機能型居宅介護は「通い」「訪問」「泊まり」を組み合わせて住み慣れた地域で暮らし続けられるように支えるサービスであり、看取りまで対応することができます。建物の持ち主であった女性の方も小規模多機能のご利用者となられ、地域とのつながりの中で最期までこの建物で過ごされました。

今まで、やまの家は**地域とのつながり**を大事にしてきました。ビアガーデンや駄菓子屋、手作り市、子ども食堂などを地域と一緒に開催し、地域の方、ご利用者、職員がまさに「顔の見える関係」でつながることができていました。地域の方からは「ウエルカムさん」の愛称で呼ばれてきましたが、コロナの流行により行事が中断となってしまったのは、やまの家も例外ではありませんでした。

しかし、コロナの流行時も併設のカフェについては感染対策を行いながら営業を続け、**地域とのつながり**が絶えることが無いように取り組んできました。

今年度に入り、地域での路地カフェも再開されるようになり、ご利用者をお連れすると、地域の方から「元気だった？」「久しぶりね」と声が掛っていました。カフェのお客様の数も徐々に増えてきています。まだまだ、コロナの感染状況を見ながらの地域活動ではありますが、地域で暮らし続けることを支援する地域密着型サービスの事業所として更に地域との関係を深めていきたいと思っています。

情報誌 Associé［アソシエ］／ 第 25 号（2022 年 7 月号）　発行／社会福祉法人京都福祉サービス協会　編集／広報委員会
所在／〒604-8872 京都市中京区壬生御所ノ内町 39 番 5 号　電話／075-406-6330（代表）　FAX／050-3153-1502